

西播磨の疏水・宇原水路で水辺の生き物教室

— 兵庫県宍粟市 —

兵庫県西播磨県民局光都土地改良センター 合 田 弘

1. はじめに

表紙写真、写真-1 は、毎年7月と9月下旬ごろ、宍粟市山崎町宇原地区の農業用水路を活用し地元自治会と地元小学校が連携して実施している「水辺の生き物教室」に参加したとき撮影したものです。



写真-1 水辺の生き物教室（9月下旬）

2. 宇原水路の概要

宍粟市は兵庫県中西部に位置し、2005（平成 17）年 4 月に旧宍粟郡の 4 町（山崎町・一宮町・波賀町・千種町）が合併し誕生しました。

南北に広く、9 割が森林を占め、県下最高峰の氷ノ山のほか 1,000 m を超える山々がそびえ、清流「揖保川」など美しい自然資源や風景が四季折々の風情を織りなしています。

北は鳥取県、西は岡山県に接しており、京阪神と中国地方を結ぶ中国自動車道と、山陽と山陰を結ぶ国道 29 号が交差する西播磨地域内陸の交通の要衝となっています。

（1）宇原水路の水源（戸原頭首工） 山崎町戸原地区は、宍粟市の最南端の川戸・宇原・下宇原からなり、南はたつの市新宮町上笹、東は山を挟んで姫路市安富町塩野・狭戸、西は揖保川を隔ててたつの市新宮町香山、山崎町下比地・御名・野、北は須賀峠を越えて山崎町須賀沢に接しています。

宇原水路の水源である戸原頭首工は、元々は、上流

より川戸井堰、宇原井堰、下宇原井堰があり、川戸井堰については明治初期に、宇原・下宇原井堰は江戸時代前期にすでに取水されていたようです。

戸原頭首工については、1964（昭和 39）年 9 月の台風 20 号により被災し、決壊・流失してしまったため、1967（昭和 42）年 3 月に県営災害復旧事業により、元の川戸井堰の上流 350 m の位置に統合井堰として復旧・造成されたのが現在の戸原頭首工です（写真-2）。

戸原頭首工や幹線水路は戸原土地改良区によって管理されています。地区内の農地の大半は県営や団体営のは場整備事業で整備されており、支線水路は関係自治会で管理するなど土地改良区と各自治会との共同管理が行われています。

「播磨風土記」によると、宇原の名は伊和大神がこの地を占拠した時「この地は小さくて狭い室戸のようだ」と言ったので「表土」となりました。それが宇原の名のおこりだといわれています。

宇原地区へは、中国自動車道「山崎 IC」から国道 29 号を南へ「山崎 IC 南」から県道 26 号に右折し約 4 km、約 5 分、揖保川に架かる「宇原橋」の東側（左折）にある集落です。



写真-2 戸原頭首工（9月下旬）

（2）宇原の圃場整備 周囲を山に囲まれた宇原地区の東側に当たる湿地帯約 10 ha を対象に排水対策事業と併せて 3 反の区画整備 7 ha が 1993（平成 5）年

3月に竣工しました。新たな排水路も増設し乾田化された圃場が整備されました。

その後、十数年間の準備期間を経て、長年の懸案であった、宇原地区約30haを対象に県営ほ場整備事業が実施され、一区画6反～1町の区画整備24haが2014（平成26）年3月に竣工しました。田畑輪換が可能な汎用農地が確保でき、併せて、農用地の集団化や担い手への面的集積、大型機械の導入等労働生産性の向上が図られ、黒大豆や野菜との複合経営を展開するなど、若い担い手を中心に収益性の高い効率的で安定的な農業経営の持続的な発展を図ることが可能となりました。

(3) ふるさと戸原地域づくり委員会 2010（平成22）年1月、戸原地区の住民が戸原地区の姿と魅力とお宝を発見し、自然や歴史、文化を大切に、将来を語り継ぎ、地域のコミュニティを図り、いきがいのある地域づくりを行うために『ふるさと戸原地域づくり委員会』（以下、「委員会」という）を発足しました。

委員会は、戸原の遺跡、建造物、伝統芸能や宍粟50名山等についてまとめた「ふるさと戸原」等を編集し、配布することで①地域の魅力再発見、②語り合う機会の増加等各種団体の調和や関心の向上、③希薄化しているコミュニティの連携・強化を目指すため、戸原地区の自治会をはじめ16団体から構成され、自治会や郷土史学習同好会を中心に編集作業が進められました。

3. 水辺の生き物教室

宇原地区でも農業者だけでなく、地域住民、自治会、関係団体などが幅広く参加する活動組織を中心に、農林水産省が2007（平成19）年度から、農地・水・環境の良好な保全とその質の向上を図る対策として「農地・水・環境保全向上対策」が取り組まれています。

その共同活動のひとつとして、水が豊富に集まる排水対策で設置した農業用水路を活用し「生き物調査」を水生植物や昆虫の専門家を講師に招き、まずは地域住民を対象に地域主体で実施しました。

ちょうど委員会の発足準備が進むころから、地域の子供たちへも地域の自然環境の豊かさを伝えることが大切であるという思いから自治会と地元小学校とが連携し、戸原小学校3年生と5年生を対象に「水辺の生き物教室」として、2008（平成20）年7月から年に2回の観察会が実施されるようになりました。

また、講師を務める姫路市手柄山温室植物園の研究員松本修二氏らが取りまとめている「山崎町宇原地区水辺の生き物調査」資料からは、戸原小学校3年生から6年生を対象に昨年2024（令和6）年9月まで17年間で25回実施されていることが確認できました

(写真-1、図-1)。

今年2025（令和7）年も7月と10月に、4月から統合された新校「山崎南小学校」3年生を対象に観察会を実施することが予定されています。



図-1 姫路市在住の版画家、岩田健三郎氏作
(宇原水路での生き物観察会の様子)

4. 揖保川流域の資源発掘、宇原地区散策

毎年5月から翌年2月にかけて、日本風景街道 新因幡ライン協議会が主催、NPO法人奥播磨夢倶楽部が企画・運営して「風景街道フットパス」の各種ウォークが開催されています。

今年、2025（令和7）年5月下旬、風景街道フットパス揖保川の水運・高瀬舟で巡るシリーズのひとつ、揖保川流域の資源発掘「宇原探検ウォーク」が開催され、散策マップを片手に宇原地区を散策しました。

宇原地区には公共交通機関では、JR網干駅前から山崎まで神姫バスが走っており、県道26号から揖保川に架かる「宇原橋」のところに最寄の停留場「渡場」があります。

(1) 宇原岩田神社 1304（嘉元2）年にこの地に鎮座され、本村の産土神でありました。代々旧領本多家の崇敬厚く、社殿は1563（永禄6）年9月に再建されたと伝えられています。

元々、対岸の上比地に岩田神社がありましたが、洪水で参詣できなかったことから、宇原にも同じ神々を岩田神社として祀ることになったそうです（写真-3）。

(2) 宇原天満宮 岩田神社の西方にあり、「天神さん」として親しまれています。いつごろ祀られたか詳細は不明ですが、前堂は1950（昭和25）年に建立されています。鳥居は1993（平成5）年の台風により倒壊し再建されたものです。周囲には古墳が点在しています（写真-4）。

(3) 宇原獅子舞保存会（宇原宮西公民館）江戸時代末期に現在の姫路市夢前町護持から習得したと伝えられています。1858（安政5）年に山崎本多藩の若



写真-3 宇原岩田神社



写真-4 宇原天満宮「天神さん」

殿が肥後守に任ぜられたお祝いとして、山崎八幡神社に奉納披露された記述が藩の覚書帳に残っています。現在使用する太鼓の内側には1661（万治3）年の銘があります。

幕の中に二人が入る二人立の獅子舞の系統に属し、獅子頭と前足を担当する演者と後ろ足を担当する演者の息のあった動きによって獅子に魂が吹き込まれ、宇原岩田神社にて毎年「10月秋季大祭」には奉納宮入り獅子が五穀豊穡と家内安泰を祈願して奉納されます（写真-5）。



写真-5 宇原獅子舞保存会（宇原宮西公民館）

(4) **宇原古墳群** 揖保川左岸に沿う平野に面した丘陵の裾部に分布し、この地を治めた首長の墓として築かれた横穴式石室を持つ16基からなる宇原の古墳群です。鏡装飾品や類土器などが納められていました（写真-6）。



写真-6 宇原古墳群

(5) **宇原の渡し場跡** 宇原橋ができるまでは、昔の街道（県道26号）に渡る唯一の交通手段として渡し舟で対岸に村人たちを運んでいました。山崎町史には1651（慶安4）年に運航が始まり、村が渡し場を運営し東岸に管理する小屋があり、現在も宇原渡し場跡の石柱は東岸に残っています（写真-7）。



写真-7 宇原の渡し場跡（宇原橋左岸より）

5. おわりに

昨年2024（令和6）年12月、宇原獅子舞保存会は『第44回伝統文化ポーラ賞（地域賞）』を受賞しました。『過去と未来、全ての人生を掛けて全身全霊で舞う獅子舞』

その選考理由は、少子高齢化や人口減少の中での持続可能な継承に向けた「宇原獅子舞を活かした地域おこしと地域貢献」の活動です。

たとえば、女性の参加を積極的に進め、他地域からの参加も可能としました。パラスポーツ大会や福祉施設での上演など活動の幅も広げ、その結果、平均年齢

も50代から30代に若返り，継承者も倍以上に増え，できなかった演目も復活しました。こうした活動が民俗芸能の今後の可能性を示す事例として高く評価されたのです（写真-8）。



写真-8 宇原獅子舞，大阪・関西万博にて披露

宇原地域では，いつの時代でも，たとえば委員会が発足した背景も同様，「継承」がキーワードとなっています。

今回，地元自治会など関係機関と連携・協働体制を構築して実施する「水辺の生き物教室」も然り。ふるさと学習のひとつとして位置付けている新校『山崎南小学校』の山本哲史校長は「地域の自然環境を守り，活かし，次代に継承するため，この地域にあった活動や取組みを「地域ぐるみ」で継続的に取り組んで参りたい」と思いを寄せられています。

参 考 文 献

- 1) ふるさと戸原地域づくり委員会：ふるさと戸原，ふるさと戸原地域づくり委員会（2011）
- 2) ふるさと戸原地域づくり委員会：戸原ふれあい探訪，ふるさと戸原地域づくり委員会（2012）
- 3) 宍粟市山崎町ふるさと戸原地域づくり委員会監修：風景街道フットパス／揖保川流域の資源発掘「宇原探検ウォーク」散策マップ，NPO 法人奥播磨夢倶楽部（2025）